

修士課程

基盤科目

企業財務特論

2 単位 Corporate Finance

財務会計、ファイナンスの要点について、特に現実のビジネス活動との対応づけを重視しつつ学習する。財務会計領域では、財務三表を読み基本的な財務分析や財務モデリングの手法を学ぶ。ファイナンスの領域においては、企業価値評価手法、株主価値経営の基礎を理解する。さらに、管理会計についても伝統的原価計算と A B C (Activity Based Costing) / A B M (Activity Based Management) の比較、スループット会計などを概観して経営判断に会計手法を活用するアプローチを学び修得する。

目標：1. 企業経営における財務の役割や重要性を理解できる。2. 企業財務と会計情報の関係を理解できる。3. 財務分析や財務モデリング手法を理解できる。4. 企業価値評価法、株主価値経営の基礎を理解できる。5. 伝統的原価計算、A B C、A B M、スループット会計について学ぶことにより、経営判断に会計手法を活用したアプローチの有効性を理解できる。

I T リスクマネジメント特論

2 単位 IT Risk Management

リスクマネジメントとはリスクを組織的にマネジメントし、ハザード（危害）、損失などを回避もしくは、それらの低減をはかるプロセスと各種の危険による不測の損害を最少の費用で効果的に処理するための経営管理手法をいう。本科目では、特に I T システムのリスクに関して、不正によるものだけでなく天災や故障ならびにヒューマンエラーによって生ずる I T システムのリスクならびに I T システムが扱う情報やサービスに関連して発生するリスクをいかにマネジメントするかについて、基本原理とマネジメントシステムを理解し、現実の場面で応用できる能力を醸成することを目的とする。

目標：1. I T リスクの事前に抽出・評価し、対策を行って未然防止を図るための基本原理とマネジメントシステムを理解できる。2. リスクマネジメントを現実の場面で応用できるようになる。

サプライチェーンマネジメント特論

2 単位 Supply Chain Management

サプライチェーンマネジメント（以下 S C M）の優劣が経営に大きな影響を与えることが社会で立証されてきたが、実社会での実践学としての取り組みが多く、学問的に体系付けられている例は少ない。この講義では受講者には事例を基にしたケースを読みながら、S C M の実践における普遍的原理、考え方、手法などを学び、どのような場においても S C M の現存する問題点を発見し、経営に有効に寄与する S C M の「仕事の仕組み」を構築する能力を醸成することを目標とする。

目標：1. S C M の実践における普遍的原理、考え方、手法などを理解できる。2. どのような場においても S C M の現存する問題点を発見し、経営に有効に寄与する S C M の「仕事の仕組み」を構築することができるようになる。

コンサルティング特論

2 単位 Consulting

専門知識が多様化し日々複雑高度化する今日においては、企業活動、社会活動での各種問題解決や経営改善・改革の要請に対するコンサルタントの役割は増大している。この問題解決や経営改革を効果的に実施するために必要な手法が、コンサルティングプロセスである。当授業では、有用なコンサルティング実施上の考え方と手法を学習する。「コンサルタントの役割と心得」では、プロフェッショナルとしてのコンサルタントの理解を深める。「仮説の設定方法」では、目的達成のための課題展開と課題を解決するためのデータ収集・発見・分析・解決案作成プロセスを学びながら、事実を収集するための仮説と解決案の検証のための仮説設定ができることを目指す。また「活動ガイド」では、コンサルティング活動に必要な考慮すべき実践項目について事例を交えて学ぶ。履修者は将来、自身の企業内外の各種プロジェクト活動や改善提案や改革提言を効果的に推進するための基礎知識が得られる。

目標：1. コンサルタントの役割と心得が理解できる。2. 仮説の設定が実践できる。3. コンサルティングの考慮点を自身の研究活動に適用できる。